



TOPICS

広報係



生物化学剤（BC災害）現場活動訓練

実施日：平成20年7月18日（金） AM10：00～11：30

場 所：甲府市小瀬町 840 山梨県小瀬スポーツ公園

この訓練は、「生物化学剤（BC 災害）に対する甲府地区消防活動マニュアル」に基づき特異災害発生時の活動に対して、消防・救急部隊が必要な知識と迅速的確な判断及び技術の習得を目的として実施しました。

また、訓練は「山梨県緊急消防援助隊受援計画」による応援部隊が到着するまでの間に行う初動期の活動要領を実践し、手順の確認と問題点の抽出を行いました。

訓練開始



午前10時頃、小瀬スポーツ公園陸上競技場メインスタンド出入口付近で、何者かが有毒ガスを発生させ、競技場関係者や観客ら多数が倒れ、目の痛みなどを訴えているとの通報で消防本部は特異災害集団事故と判断し、集団災害事故（BC災害）対応として部隊を出動させた。

現場本部設置・情報収集訓練



直ちに現場本部を設置し、関係者が集結します。



関係者からの情報を収集し正確な情報を集約します。



収集した情報を基に関係者と対策を協議します。

広報訓練



広報訓練は、参観者に訓練の経過や状況を説明します。



大規模な実践訓練のため、県内の各消防本部や報道関係者が多数参観に来ました。



資機材等活動の準備

活動が安全に行えるよう、一つひとつ確認呼称しながら入念に準備を行います。



資機材や装備の準備



資機材や装備の組み立て



化学防護服の着装



資機材や装備の配置先の確認



第一次除染シャワーテント搬送



第一次除染シャワーテント設置



第二次除染エアーテント設営



水除染のための筒先配備



危険区域設定（ゾーンエリア）

活動開始



化学防護服隊（検知班）：有毒ガスの種別と濃度の測定を行う物質検知測定訓練

危険区域（ゾーン）を設定し、危険度（レベル）に応じた化学防護服を着装して活動します。



要救助者発見



要救助者救出



重傷者は担架で搬送

化学防護服隊（救助班）：高度救助隊の救出・救護訓練

↑（ホットゾーンエリアでは、レベル A 化学防護服を着装します）



放水による水除染



さらにシャワーテントに誘導



シャワーテントで水除染

第一次除染訓練（シャワーテントで水除染を行います）※防護服も除染します

↓（ウォームゾーンエリアでは、レベル B 化学防護服を着装します）



除染後、トリアージに誘導



ファーストトリアージにて重症度の簡易トリアージ開始



ファーストトリアージ訓練（トリアージ：災害医療での治療優先順序の選別をおこないます）



第二次除染場所（エアーテント）に誘導



第二次除染訓練（エアーテント内でドレンチャーにより水除染を行います）

エアーテントにはドレンチャーと呼ばれる器具を設置し、大規模な第二次除染シャワーテントとして使用します。

※ドレンチャーとは、消防ホースの先に接続して水幕（ウォーターカーテン）を作る器具で通常延焼防止のために使います。



救急隊とDMATの連携で処置と搬送の優先順位を決定

セカンドトリアージ訓練（要救助者引渡し）



災害派遣医療チーム『DMAT』は、「機動力のある、トレーニングを受けた医療チーム」で、傷病者の観察や救命処置にあたり、セカンドトリアージオフィサー（傷病者選別責任者）として、各救急隊に搬送の指示をします。

山梨県立中央病院から

「山梨DMAT」5名協力



散布器により再度除染活動



活動各隊の終了報告



終了式



訓練参加隊集合



DMAT 代表



甲府地区渡辺消防長

所見

この訓練は、南消防署が主体となり、「BC 災害訓練」と「トリアージ訓練」の2部構成の訓練を実施しました。

BC 災害訓練では、BC 災害の特徴、防護、除染などに関する知識を学び、トリアージ訓練では、活動計画に基づき、指揮命令系統の早期確立、安全確保、情報伝達体制の確立、トリアージ、処置・搬送までの初動及び対応システムの早期確立を図ることを目的に訓練を実施しました。

当日は、BC 災害を想定した訓練でしたが、無事に想定した訓練を終えることができ、当初の目的を達成することができました。

訓練実施機関

甲府地区消防本部
南消防署
中央消防署
西消防署

訓練協力機関

山梨県防災航空隊
南甲府警察署
山梨県立中央病院「災害派遣医療チーム
DMAT」
(財) 山梨県体育協会

生物・化学災害に対する消防の対応

細菌等の生物や化学物質に係る災害(BC 災害)として、消防機関では従前より研究施設、化学工場及び毒物劇物輸送車両等での火災や漏えい事故等に対応してきました。

しかし、平成 6～7 年の長野県松本市、東京都でのサリン事件や、平成 13 年の米国での炭疽(そ)菌事件など、無差別な殺傷を目的とするテロ事件が発生しており、いわゆる大量破壊兵器に相当する生物剤や化学剤を用いたテロ(BC テロ)など、犯罪に起因する BC 災害にも消防機関が対応しなければならない状況となっています。

訓練に参加した隊員は「災害が起きないことが一番ですが、大切な訓練です。救助から除染までの技術をしっかりと身に付け、市民の安全を守ります」と話していた。

※ BC災害(テロ)・・・B(Biological・生物)、C(Chemical・化学)物質を使用した災害(テロ)をいいます。

☆ 生物兵器・・・生物剤(炭素菌・リシン等)を散布・噴霧等により毒性を人間の体内に吸引・吸収させ伝染効果により破壊的打撃をあたえる。

☆ 化学兵器・・・化学剤の持つ毒性・刺激剤性等を利用、神経系や呼吸器系・消化器系に影響を与え、人間や動物、植物を殺傷しようとするもの。

※ トリアージ・・・医療機能が制約される中で、一人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うため、傷病者の緊急度や重傷度によって治療や搬送の優先順位を決めること。

※ 除 染・・・生物・化学物質による負傷者、機材等から汚染が広がるのを物理的・化学的に歯止めをかけ防ぐこと。